

第70回記念埼玉県美術展覧会 審査評

【第3部 彫刻】

○総評

審査主任 齋藤 由加

ようやくの開催となったこの第70回記念展。長い空白期間を越えて果たして彫刻作品が集まるのかという私の心配は、良い意味で大きく裏切られました。一般、会員からの応募数は前回は大きく上回り、内容も完成度の高い力作、意欲作が目立ちました。

その結果審査は例年になく厳しさとなりました。展示スペースも縮小したため総展示数を増やす訳にもいかず、多くの良作が惜しくも落選となりました。またその中には技術的には素晴らしい所があるものの、道具としての用途があったり、小さすぎたり、表現手法が工芸的になり過ぎていた為に外さざるを得なかった作品があったことも残念でした。今後彫刻部の規格制限の内容を見直していく必要を強く感じます。

素材も表現も多様化する中、特にそれらを巧みに使いこなし、伸び伸びと個性的に表現した作品を選び受賞作としました。参加された全ての方にご覧いただき、また来年の制作への情熱に繋げて頂きたいと願います。

○埼玉県知事賞

「永劫」 本多 史弥

テラコッタでありながら、等身大を超える大作の女性坐像です。着実なデッサン力に支えられた人体表現は勿論、量感あるフォルムや、洗練された流れるような曲面で表現されたコスチュームが、全体にゆったりとした穏やかな空間を作り上げています。

表面の仕上げも顔の表情もすっと整い、柔らかな中にきりりとした美しさを与えており、満場一致の選考となりました。今後もより一層表現の幅を広げてゆくのではと大変に楽しみです。

○埼玉県議会議長賞

「なびくかたち」 森下 聖大

木彫のレリーフ的作品です。遠目に流木や木の皮を利用したのかと思えば近づいてみると、木目を生かした、たゆたうような起伏が美しく、更には所々に開けられた穴によって、裏面からも丁寧に彫り攻められた薄さなのだと思えます。背景に置かれた四角いパネルも、本体とのサイズ差や色合いが絶妙で、全体に洗練されたデザインとなっています。過去にも力を感じる作品を作られていましたが、繊細さも加わり素晴らしいと思います。

○埼玉県教育委員会教育長賞

「コネクティング『ボルト』」 さかえ かずお
榮 一男

本焼きしたと思われる陶素材ですが、本当に鉄で出来ているかのような色味やボルトの造形の完成度が高く、落ち着いた重量感を与えています。そこに偶然割れたのか意図的に傷をつけたのかは不明ですが、金継ぎを思わせる色を置いた場所のテクスチャが曲面に気持ちの良い緊張感を与えており、工芸から一步彫刻の領域に踏み込んで来たのだと感じさせる作品になっています。

○第70回記念賞

「回って歩く 鑄鉄」 まわ ある ちゅうてつ はせがわ ぜんいち
長谷川 善一

鑄鉄で出来た大きな作品です。見た目通りの重量感でありながら、二本で立つ足にはちゃんと動きがあり、背中に乗った分厚い檻のような地球儀のような球体は、実際に回ります。素材の強さに負けない少しコミカルで想像力をかきたてる世界観といい、どんな世代の人が見ても飽きない作品になっていると思います。

○埼玉県美術家協会賞

「Shoebill」 しゅーびる むらた しほ
村田 之保

題名の Shoebill とはハシビロコウの英名です。実物よりは小さめと思われませんが、少し怖い印象になりがちなこの鳥を、作者は優しげな表情のある佇まいに仕上げました。この鳥への想いを感じます。テラコッタ表面の恐らくは砥の粉と思われる色仕上げも感じが良いと評価されました。

○埼玉県美術家協会賞

「想」 そう ごとう のぶお
後藤 信夫

小品ではありますが、気持ちよく落ち着いた完成度の高い造形です。見るほどに味わいのある肌合いも、大胆にデフォルメされた裸婦のフォルムの中にしっかりと感じられる造形力も、一見無造作に作品が置かれたようなのみ切り肌の台座の石との素材感の対比も、巧みと唸られました。作者の高い技量と見識がうかがえます。

○テレビ埼玉賞

「海辺の街の記憶」 うみべ まち きおく ますだ ゆうじ
増田 祐司

木材と錆びた鉄を組み合わせた空間演出的な作品です。木材をただ幾何学的というだけでなく、建築の一部のように緻密に組み上げ、そこに潮風にさらされて腐食の進んだような様々な形状の鉄金具を組み合わせています。工夫され尽くしたそれらの配置がどの角度から俯瞰しても面白く、作者のかねてよりのこだわりの形が、ここに一つの完成を見たような気がします。